

## リラ冷え

オホーツクの海から流水が姿を消し桜前線も記録的な早さで日本列島を駆け抜け終着駅の根室に着いた。南国沖縄はすでに梅雨入りし盛夏が順調に北上を始めたが北国ではようやく春から初夏に向かって季節が動きだした。

札幌では紫色や白い色の小さな花を木に一杯つけたライラックがいまを盛りと咲きほこり、可憐な花が枝のもとから順に咲き進んでいる有様が見られる。春の主役の桜が散るのを待ち構えたように初夏の香りを北の街に漂わせている。

ライラックは英語の名で日本名はムラサキハラドイ、フランス名がリラである。この花の季節にしばしば初夏への順調な歩みを押し戻すかのように寒の戻りがある。オホーツク海に居座った高気圧が送風機の役目をして冷たい北東の風ヤマセが吹き込みリラの花咲く街に若葉寒をもたらす。冷たい霧雨に濡れ凜とした風情をかもしだしていることからこの寒の戻りを『リラ冷え』と呼んでいる。

とくにオホーツクの沿岸での低温が著しく、二十年ほど前の五月末に網走方面で十センチの雪が積もったという記録もあるほどである。今年も今週はじめてリラ冷えとなりオホーツク海に面する網走では山沿いで

雪が混じり日中の最高気温が四度くらいのも寒い日が続いた。東京の真冬なみの寒さである。勿論まだストーブはしまっていないので急きよ暖房とあいなるがとにかく寒い。この季節、バカ陽気とリラ冷えが交互に訪れ、早春と初夏が行きつ戻りつ季節が進むが、時には間隙をぬって春雷が轟きヒョウが降る。

上空には冬の名残の冷たい空気が残り、地面近くは季節が進んで初夏となっており、季節のすれ違いさまで入道雲が発達したのである。来週は札幌の大通り公園でライラック祭が始まり、いよいよ初夏である。

日経お天気歳時記 一九九〇〇五一八